別　紙

諏訪南事業所ユーティリティ設備における省エネ活動

1　事業者

セイコーエプソン株式会社、中部電力ミライズ株式会社

2　対象事業所

セイコーエプソン株式会社　諏訪南事業所

3　概要

（１）課題認識

エプソンではユーティリティ設備の実運用やリスク管理ノウハウを生かした省エネ施策の精査、検討技術に長けている反面、省エネに対する知見（具体的な省エネ取組み手法、施策立案、削減効果の算定等）が少ないことが課題であった。

（２）実施内容

両社の役割を明確化し強みを活かすことで、計画的かつ既存の製造・開発環境を維持した状態で省エネ目標※の達成を目指した。

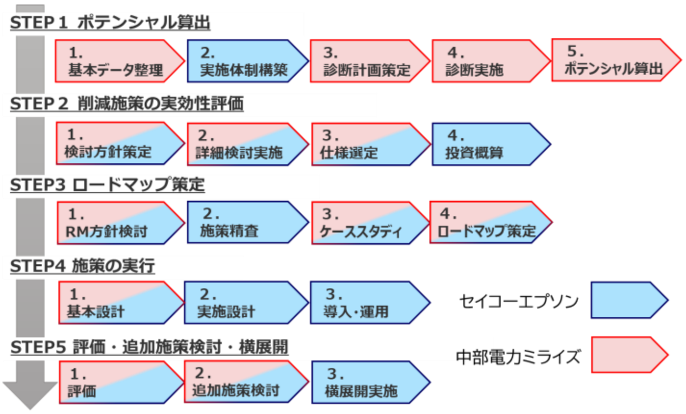
※2025 年にスコープ 1,2 の GHG 排出量を 2017 年度比で 34%削減（内、ユーティリティ設備で 3,000[t-CO_2/年]を削減）するという諏訪南事業所が独自で設定している目標

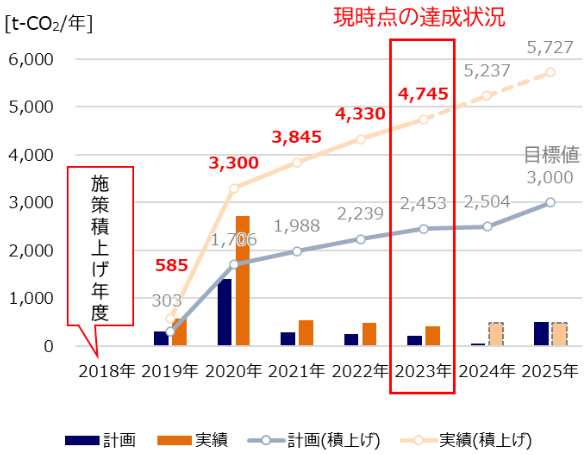
両社の役割と強み	
セイコーエプソン	・　工場運営における設備運用 ・　リスク管理のノウハウを生かした案件精査・検討 ・　省エネ施策の検討・精査及び実施 ・　各設備更新計画の策定及び稼働状況把握
中部電力ミライズ	・　省エネに関する高い知見を活かした省エネ施策提案 ・　エネルギー計測、さらなる改善の余地の提案 ・　省エネ手法、エネルギー計測・分析方法の展開・教育 ・　省エネ性・環境性を考慮した脱炭素ロードマップの提案

（３）実施結果

・目標値を超える▲4,745[t-CO_2/年]（対目標値 158[%]）の CO_2 を削減した。

・脱炭素化に向けたロードマップ策定フローと達成状況は以下の通り。





以　上